

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
山陰中央専門大学校	2006年2月6日	西田 忠男	〒690-0001 島根県松江市東朝日町75-12 (電話) 0852-31-5500																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人 坪内学園	1969年11月8日	坪内 浩一	〒690-0001 島根県松江市東朝日町74 (電話) 0852-31-5500																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	こども総合学科	2013年1月29日 文部科学省告示	-																			
学科の目的	教育・社会福祉業界の要望に応えた専門的な教育により、職業人(保育士・幼稚園教諭)として必要な知識及び技能を修得させるとともに、国家資格や各種資格を取得させ、教育・社会福祉業界に貢献できる優秀な人材を育成する。																						
認定年月日	2015年2月17日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
2年	昼間	104	42	55	55	0	1																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
100人	47人	0人	5人	4人	9人																		
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験、課題などの評価資料に基づいて総合的に定める。基準は次の通り。 「A(優)」90～100 「B(良)」80～89 「C(可)」70～79 「D(不可)」70未満																			
長期休み	■学年始:4月1日～4月8日 ■夏 期:7月31日～8月31日 ■冬 期:12月28日～1月5日 ■学年末:3月20日～3月31日		卒業・進級条件	・卒業:2020年度入学生は104単位以上 2019年度入学生は105単位以上の教育時間数を修得すること。 ・進級条件:各年度に設定された単位及び教育時間数を修得すること。																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任などによる面談・保護者面談を行っている。又、必要と思われる学生に対し、随時、個別面談を行っている。		課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 学園祭等の実行委員会等 ■サークル活動: 有																			
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(2019年度卒業生) 幼稚園、保育園、障害者施設等、教育・社会福祉業界 ■就職指導内容 面接および作文指導 各種文書作成に対する指導 ■卒業生数: 25 人 ■就職希望者数: 25 人 ■就職者数: 25 人 ■就職率: 100 % ■卒業者に占める就職者の割合: 100 % ■その他 ・進学者数: 0人 (2019年度卒業生に関する 2020年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (2019年度卒業生に関する2020年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保育士</td> <td>①</td> <td>25人</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定 ジョブパス3級</td> <td>③</td> <td>25人</td> <td>21人</td> </tr> <tr> <td>幼児体育2級</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>6人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	保育士	①	25人	25人	ビジネス能力検定 ジョブパス3級	③	25人	21人	幼児体育2級	③	8人	6人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
保育士	①	25人	25人																				
ビジネス能力検定 ジョブパス3級	③	25人	21人																				
幼児体育2級	③	8人	6人																				
中途退学の現状	■中途退学者 2名 2019年4月1日時点において、在学者51名(2019年4月1日入学者を含む) 2020年3月31日時点において、在学者49名(2020年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 学生の進路変更のため ■中退防止・中退者支援のための取組 欠席が無断で3日続いた場合は、保護者に連絡をして、必要な場合は面談を行う。 学生に声掛けをすることを積極的に取り組む。		中退率	3.9 %																			
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ①学校推薦型選抜入試 指定校推薦型(入学金50,000円～100,000円免除:初年度のみ) ②学校推薦型選抜入試 一般推薦型(入学金20,000円免除:初年度のみ) ③坪内学園修学支援金(授業料の一部50,000円～100,000円を付与、10名程度/2年進級時に新たに採用募集・審査あり) ④一般選抜入試併願型(併願料30,000円は入学金もしくは授業料の一部に充当する) ⑤父母兄弟姉妹奨学金制度(入学金の一部50,000円免除:初年度のみ) ⑥坪内学園グループこども総合学科奨学金給付制度(400,000円/年) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																						
当該学科のホームページURL	https://sicc.sctg.ac.jp/																						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学生の主な就業先である保育現場における人材の専門性に関する動向、社会情勢、また企業等の成長や変化に伴い必要となる新たな、知識、技能等を企業等との連携により授業カリキュラム内に取り入れる。
企業等参加の公開授業の実施・授業後のアンケート及び意見交換、学生の実務実習、教員研修といった授業・実習・研修を介して、企業等の意見・要請を得る。この意見・要請を基に、教育課程編成委員会により、現場と温度差のない、専門的で実践的な職業教育を行うための授業内容及びカリキュラムを作成していくことを目的とし、基本方針に掲げている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教職員研修会により研修(校内教職員研修、公開授業企業参観、教員インターンシップ、関係者団体研修、専修各種学校関連団体等研修)の実施結果を踏まえ、学科教員でカリキュラムの見直し案を作成。研修結果及び教員からの意見に加え、業界の動向や本校関係諸情報の収集等をし、年に2回開催される教育課程編成委員会(教育課程編成委員で構成)にて図る。会議で出されたカリキュラム改善に対して意見をご提案頂き、組織として教育課程の編成に反映させることを検討し決定したものについては導入。今以上に実践的な教授内容を実施する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

2020年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
船木 忠	松江市役所 子育て部	2019年4月1日～ 2021年3月31日(2年)	①
種平 知美	学校法人 坪内朋和学園 育英幼稚園	2019年4月1日～ 2021年3月31日(2年)	③
山本 優子	学校法人 坪内朋和学園 育英保育園	2019年4月1日～ 2021年3月31日(2年)	③
坪内 浩一	学校法人 坪内学園 山陰中央専門大学校	2019年4月1日～ 2021年3月31日(2年)	
西田 忠男	学校法人 坪内学園 山陰中央専門大学校	2019年4月1日～ 2021年3月31日(2年)	
白 優寛	学校法人 坪内学園 山陰中央専門大学校	2020年4月1日～ 2022年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 年間開催数:2回 開催時期:10月、2～3月

(開催日時(実績))

2013年度	10月28日 15:00～16:00	2月 4日 14:00～15:00
2014年度	10月 1日 15:30～16:30	2月 2日 15:30～16:30
2015年度	10月27日 15:30～16:30	2月 1日 15:30～16:30
2016年度	10月26日 9:30～10:30	2月13日 15:30～16:30
2017年度	10月11日 15:30～16:30	2月 5日 15:30～16:30
2018年度	10月17日 13:30～14:30	2月13日 13:30～14:30
2019年度	10月17日 14:15～15:15	3月 4日 15:45～16:45
2020年度	10月、2月 開催予定	

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育活動及び学校運営において委員から評価は概ね高く、今後もひきつづき、より職業実践に即した教育活動及び学校運営となるよう意見を頂戴している。意見の活用状況については、日誌作成に必要とされる力(短い文章でいかに保護者様に伝えるか、主語・述語の明記等)育成の提言があったため、授業内の指導や日々の学生指導で実践している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

校内で学習した内容と実習先での状況を踏まえ、援助計画を理解し、援助プログラムの立案・実践を通して、保育士の態度と技術を習得することを基本方針としている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

現場の実態に応じて、2年間を通して段階的に知識・技術を習得していけるような実習先への巡回、園との情報交換を行わないながら校内および実習先において段階的に指導を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
保育実習Ⅰ	学内での学びを基礎として、保育所の機能、子どもや保育者についての理解を目的として学外で実習する。 施設での実習を通して施設の現状を視察し、施設、こども、保育士、その他の専門職について体験を通して学ぶ。	坪内宝珠会たまち乳児保育園、坪内朋和学園育英保育園、みつき福祉会みのり保育園、おおつか福祉会おおつか保育園、さがた福祉会さがた保育園、米子福祉会加茂保育園、みその児童福祉会米子聖園マリア園、山陰家庭学院みのりの家、松江福祉会ふじのみ園、せんだん会梨の木園、祥和会わかとり作業所など
保育実習Ⅱ	保育実習Ⅰで修得した知識や理解したことをさらに専門的知識として深くするため、保育に参加する。	坪内宝珠会たまち保育園、ひよし福祉会ひよし第2保育園、みずうみ みずうみ保育園、松生会ふたば第三こども園、認定こども園北陵保育園、恵寿会出雲サンサン保育園、せんだん会城谷保育所、仁厚会大和保育園、米子市立東保育園、あおい福祉会あおい保育園など
福祉・社会Ⅰ	校内でグループワーク等を実施し、学生間の親睦を深める。 歌唱・演奏や製作、レクリエーション等、日頃の学習成果を保育実践活動として発表する。 就職向け履歴書、面接などの指導を行い、企業・法人ガイダンスへ参加する。	島根県青少年の家(サン・レイク)、社会福祉法人みつき福祉会みのり保育園、社会福祉法人あすなろ会あすなろ第2保育園など
福祉・社会Ⅱ	歌唱・演奏や製作、レクリエーション等、日頃の学習成果を保育実践活動として発表する。 企業等の見学、体験活動を行う。また、就職向け履歴書、面接などの指導を行う。	社会福祉法人ナザレン愛児会、公益財団法人鉄道弘済会松江認定こども園など
キャリア演習Ⅰ	自己分析及びガイダンス等での関連業界に関する情報収集を通して、社会人として必要な知識や仕事へ取り組む姿勢等について学び、職業理解を深める。	社会福祉法人 坪内宝珠会、学校法人 坪内朋和学園、社会福祉法人 みつき福祉会など

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員に対し、企業・関係施設・業界団体等との連携を通じ、現場の最新の知識及び技能を修得させるとともに、職務の遂行に必要な能力及び資質等の向上を図ることを目的とした研修のために年間計画を立てて実施していくことを基本方針とする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「教員校外研修」(連携企業等: 学校法人坪内朋和学園 育英北幼稚園)

期間: 2019年6月14日(金)、28日(金)、7月5日(金)、10月4日(金)、11日(金) 対象: 白 優覧

内容: こども総合学科教員が保育園や施設にて研修を実施。実際の現場の状況や地域との連携の実際について学び、教員、学生に情報提供を行う。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「研究レポート」(連携企業等: 学校法人坪内朋和学園 育英北幼稚園、学校法人坪内朋和学園 育英保育園)

期間: 2019年6月～ 対象: 学科教員全員

内容: 専門分野に関連する研究レポートを作成し、校内研究レポート発表会(経過報告可)を経て、2月の教育課程編成委員会にて報告

研修名「教員研究公開授業」(連携企業等: 社会福祉法人はなぶさ認定こども園玉湯さくら保育園)

期間: 2019年11月8日(金) 対象: 白優覧

内容: 授業公開後、教員の教授の方法や授業内容について、企業(法人)関係者より意見をいただく。続いて、校内の教員による協議を行う。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「幼児体育指導者検定2級」(主催: 公益財団法人日本幼少年体育協会 会場…橋波幼児舎 大阪府守口市)

期間: 2021年1月16日(土)～1月17日(日) 対象: 白 優覧

内容: 保育現場で子どもに対して、体育や運動あそびを「楽しく」「わかりやすく」「安全に」指導できる「幼児体育指導者」のスキルを身に付ける。授業中の学生指導について活かしていく。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「研究レポート」(連携企業等: 学校法人坪内朋和学園 育英北幼稚園、学校法人坪内朋和学園 育英保育園)

期間: 2019年6月～2021年3月 対象: 学科教員全員

内容: 専門分野に関連する研究レポートを作成し、校内研究レポート発表会(経過報告可)を経て、2月の教育課程編成委員会にて報告

研修名「教員研究公開授業」(連携企業等: (調整中))

期間: 未定 対象: 石田るみ子

内容: 授業公開後、教員の教授の方法や授業内容について、企業(法人)関係者より意見をいただく。続いて、校内の教員による協議を行う。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

教育活動その他の学校運営について、目標の達成状況や取組の適切さなどを評価し、学校としての組織的、継続的な改善を図ること、評価結果の公表・説明責任を果たし、企業、保護者、地域住民などから理解と参画を得て、学校・企業・団体・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること、評価結果に応じて改善措置を講ずることにより、一定水準の教育の質を保障し、その向上を図ることを目的とし、基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	基準1教育理念・目標・育成人材像
(2)学校運営	基準2学校運営
(3)教育活動	基準3教育活動
(4)学修成果	基準4教育成果
(5)学生支援	基準5学生支援
(6)教育環境	基準6教育環境
(7)学生の受入れ募集	基準7学生の募集と受け入れ
(8)財務	基準8財務
(9)法令等の遵守	基準9法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	基準10社会貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

教育活動及び学校運営において委員から評価は概ね高く、今後もひきつづき、より職業実践に即した教育活動及び学校運営となるよう意見を頂戴している。意見の活用状況については、アクティブラーニングによる指導を授業だけでなく放課後の補習でも取り入れ、指導のさらなる充実を目指している。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

2020年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
講武 直樹	松江市役所 総務部	2019年4月1日～ 2021年3月31日(2年)	地域の地方公共団体の関係者
舟木 誠一	一般社団法人 島根県自動車整備振興会	2019年4月1日～ 2021年3月31日(2年)	学校の専門分野における業界関係者
今井 亜彩	社会福祉法人 坪内宝珠会	2019年4月1日～ 2021年3月31日(2年)	学校の専門分野における業界関係者
諏訪 方宣	社会福祉法人 松江市社会福祉協議会	2019年4月1日～ 2021年3月31日(2年)	学校の専門分野における業界関係者
永島 一雄	学校法人 永島学園	2019年4月1日～ 2021年3月31日(2年)	中学校、高等学校等の校長、進路指導担当者等
日野 修一	昭和商事株式会社	2019年4月1日～ 2021年3月31日(2年)	地域住民
狩野 俊子	山陰中央専門大学校 保護者代表	2020年4月1日～ 2021年6月30日(1年)	保護者
錦織 澄	税理士法人錦織会計事務所	2019年4月1日～ 2021年3月31日(2年)	学校運営に関する専門家
田中 健	ネットトヨタ島根株式会社	2019年4月1日～ 2021年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業との連携にあたり、本校ホームページ等にて、建学の精神、教育目標、学生のキャンパスライフなどに加え自己評価結果等を公表し情報提供している。また、学校行事である坪内学園スマイルフェスタや公開授業にご参加いただき、アンケートの実施。意見交換などを行うことで本校の情報を提供している。情報提供することにより、企業等の関係者が本校について理解をふかめるとともに、学校がより実践的な学習の場となることを目的及び基本方針として位置付けている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> ●建学の精神、学科教育目標、学年教育目標、特色 ●校長名、所在地、連絡先等 ●学校の沿革 ●その他諸活動に関する計画(就職活動計画、年間行事計画)
(2)各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> ●入学者に関する受け入れ方針、入学者数、収容定員、社会人入試 ●カリキュラム(科目、単位、授業時数) ●進級、卒業の要件等(成績評価基準、卒業・修了の認定基準など) ●取得目標資格、検定 ●就職内定率、卒業後の進路(就職先)
(3)教職員	<ul style="list-style-type: none"> ●教員氏名、専門性(一部)
(4)キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ●授業には実践に即した教材を使用 ●介護福祉士他、専門士の取得を目指す ●実習授業の実施 ●就職支援等への取組み(校外企業ガイダンス実施、企業等との連携による具体的な取組(介護実習))
(5)様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ●学校行事への取り組み状況(坪内学園スマイルフェスタ) ●課外活動(ボランティア活動、部活動)
(6)学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ●学生支援への取組状況(クラス担任制) ●学生支援への取組状況(学生会館の整備)
(7)学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> ●学生納付金の取扱い(金額、納入時期等) ●活用できる経済的支援措置の内容など(奨学金制度、教育訓練給付金制度、学資支援制度、学校独自の各種減免制度)
(8)学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> ●収支計算書、貸借対照表(HPで公開)
(9)学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ●自己評価、学校関係者評価の結果 ●評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法 山陰中央専門学校パンフレット・マイキャンパスガイドブック・学生募集要項・ホームページ

<https://sicc.sctg.ac.jp/>

授業科目等の概要

(教育・福祉専門課程こども総合学科) 2020年度入学生															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			文章表現	1.主張を絞り構成を考える方法を学ぶ。 2.自分の主張を裏付ける情報収集の方法と引用の方法、参考文献リストの作成方法を学ぶ。 3.課題に取り組み、引用しながら持論を展開する方法を学ぶ。自己点検をする。	2	40	2	○			○			○	
○			ビジネススキル I	ビジネスとコミュニケーションの基本および仕事の実践について学ぶ。また、過去問題や練習問題を解く。	2前	32	2	○			○			○	
○			情報リテラシーと処理技術	情報システムの発展、コンピュータ（ハードウェア・ソフトウェア）、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深める。また、演習を通じて、パソコンの基本操作、表計算ソフトの基本操作を学習することにより、これからの情報化社会を生きる上で必要となる基礎知識と技術を身に付ける。	1前	30	2		○		○			○	
○			英語コミュニケーション	授業の最初に、英語表現の基礎となる文法事項や基礎構文の復習及び練習を行う。その後、保育園でのさまざまな生活場面を題材にした英文や英語表現の学習を通じて、保育者と子どもや保護者のコミュニケーションに使われる英語表現や連絡事項の書き方を学習する。	1後	30	2		○		○			○	
○			健康科学	健康づくりの第一歩は自身の身体および精神がどのような状態にあるか正しく理解することであり、それぞれの現状を踏まえて健康を保持増進していくための判断材料を増やしていく。本科目では、健康的な生活設計、運動の基礎理論、運動の生理、運動処方および救急法についての基礎的な知識を現代社会との関わりから考え、ヘルスプロモーションへの理解を深め、健康で豊かな生活を送る意義を理解する。	1前	20	1	○			○			○	
○			スポーツ（実技）	生涯にわたって運動やスポーツを自ら実践することができる能力を身に付けるため、各種目に関する講義も適宜行い、健康と安全に留意しながら個人的・集団的スポーツを楽しむことができる作戦の立て方や審判の仕方、競技運営方法を学ぶ。ニュースポーツを含む各種のスポーツを仲間とともに技能面の上達を図りながら楽しむことができ、自己の体力・健康の保持・増進を図ることができる。	1前	30	1			○	○			○	
○			保育原理	本講義では、幼児期の大切さを理解することを中心に保育の基本と根本概念を学ぶ。保育の実践を支える理論的な基礎を構築するために、保育者が人々をどう理解して、育てる営みへつなげてゆくのかを学ぶ。また、現代に求められている「保育」に必要なサービスを幅広く学んでいく。	1前	30	2	○			○			○	
○			教育原理	教育学の基本的な概念と基礎理論について概括することを通して、教育の意義と目的、近代学校の成立過程、教師の仕事の役割、現代日本の学校教育制度、授業における基本的な指導原理について学ぶことを目的とする。学習を通して教育学および児童福祉の観点から今日の「子ども」を取り巻く環境の変化を理解した上で、「よりよい教育とは何か」を考える力を養う。	1前	30	2	○			○			○	
○			こども家庭福祉	本講義では、児童家庭の生活実態と社会情勢、福祉需要について理解を深め、児童の権利の視点から児童福祉の諸領域を実際的に学ぶとともに、児童・家庭福祉制度の概要及び関連する他の法制度の概要、並びに相談援助活動の実践について理解する。	1前	30	2	○			○			○	
○			社会福祉論	社会福祉に関する基礎知識の体系的な習得を目指す。具体的には、現代社会において社会福祉が果たしている役割や機能、保育士として活躍するために必要な基礎知識、社会福祉の歴史、社会福祉の法体系運営実施体制、社会福祉の財源と費用負担、民間社会福祉の組織と活動、日本の社会福祉の動向と今後の課題などについて学習する。	1前	30	2	○			○			○	
○			こども家庭支援論	多様化する過程の課題やニーズに関する背景および解決策について、地域の一員という個人としての関わりから保育士徳専門家としての関わり方を考える。また、各種施設・団体との連携の意義目的についても学び、組織的に課題に取り組む態度を育てる。	2前	30	2	○			○			○	
○			社会的養護 I	本講義では、現行福祉制度における類型別施設養護の意義と、その支援の展開についての基礎知識を習得する。また、施設における日常生活援助、施設保育士の専門性、特別な配慮を必要とする児童への援助や保護者への援助について学ぶ。さらに、日常的なケア、リビングケア、アフターケア、児童の権利保障及び自立支援計画などについて講義する。	1前	30	2	○			○			○	

○		表現とこどもの運動	見立てや運動青しを実践したり触れたもの見えるものから想像を膨らませて表現したりする活動を実施するとともに様々な音や音楽、絵本や人形劇などに親しむ活動を通して、活動自体の実践だけでなく環境設定や援助手法、環境や素材の活用などに関わる知識・技術について学ぶ。	1後	20	1		○	○	○								
○		保育実習指導Ⅰ	実習に対し学生の関心を深め、不安を解消するように、また、具体的なことを解りやすく伝える。実習にスムーズに入れるよう指導する。保育実習Ⅰを振り返り、自己の課題の明確化を図る。また、グループワークを通して、子どもの発達段階に応じた対応方法について、意見交換をし情報の共有化を図り学びを深める。実習を体験し、実際に子どもに関わり、イメージを持ち、次の実習に向けての指導案を立案する。反省を踏まえ、保育実習Ⅱに向けて自己目標を立てる。	1後	30	2		○	○	○								
○		保育実習Ⅰ(実習)	学内での学びを基礎として、保育所の機能、子どもや保育者についての理解を目的として学外で実習する。施設での実習を通して施設の現状を観察し、施設、子ども、保育士、その他の専門職について体験を通して学ぶ。	1後	120	4			○	○	○	○	○					○
○		保育実習指導Ⅱ	保育実習Ⅰで学んだことを活かし指導案・日案を立案し、模擬授業を行い不安なく総合実習に取り組むことが出来るようにする。また、保育実習Ⅰを振り返り、自己の課題の明確化を図る。さらに、保育実習Ⅰで学んだことの情報の共有化を図り、実習での学びを活かし今後、学生生活で身につけたいことを文章化する。	2後	20	1		○		○		○						
○		保育実習Ⅱ(実習)	保育実習Ⅰで習得した知識や理解したことをさらに専門的知識を深めるため、保育に参加する。	2後	60	2			○	○	○	○	○					○
○		憲法	社会福祉における法の作用や役割を学び、社会福祉の専門家として必要とされる法律の基本的知識を習得する。また、憲法、民法でも、行政法については、条文や判例の検討も含めて研究する。	2前	30	1		○		○		○						
○		日誌指導Ⅰ	保育所における養護および教育において、長期的・短期的な計画を立てるにあたり、計画と実施、評価、改善への流れを助ける日誌の書き方について、目的、書き方、活用手法などの基礎を学ぶ。	1後	22	1		○		○		○						
○		日誌指導Ⅱ	保育所における養護および教育において、長期的・短期的な計画を立てるにあたり、計画と実施、評価、改善への流れを助ける日誌の書き方について、目的、書き方、活用手法などの応用を学ぶ。	2	48	2		○		○		○						
○		保育あそびⅠ	保育現場で実践される音楽、製作、運動についての基礎知識を実践を通して学ぶ。	1	40	2		○		○		○						
○		保育あそびⅡ	保育あそびⅠを踏まえて、個々人が対象者に応じた保育あそびを実践できるよう応用力をみにつける。	2	154	2		○		○		○						
○		幼児音楽Ⅰ	ピアノ奏法を学び、弾き歌いや伴奏法への応用力を身に付ける。また、音楽の様々な要素を能力として定着させるための訓練としてソルフェージュを行う。実技習得は、各自の習得度に応じた個別指導も行う。また、保育において、子どもの発達段階に応じた音楽活動の内容を理解し、こどもの音楽表現を引き出すための知識と、実践的な技能を身に付ける。	1	86	2		○		○		○						
○		幼児音楽Ⅱ	ピアノ奏法を学び、弾き歌いや伴奏法への応用力を身に付ける。また、音楽の様々な要素を能力として定着させるための訓練としてソルフェージュを行う。実技習得は、各自の習得度に応じた個別指導も行う。また、保育において、子どもの発達段階に応じた音楽活動の内容を理解し、こどもの音楽表現を引き出すための知識と、実践的な技能を身に付ける。	2	100	2		○		○		○						
○		幼児体育Ⅰ	幼児期の子どもたちにとって「遊び」は知的・情緒的・身体的な発達発達のため非常に重要な要素を含むものであることを理解し、それを踏まえたうえで、対象者に対してどのような運動プログラムを選択するための材料と実践できるレパートリーを増やすための実践を繰り返す行う。	1	86	2		○		○		○						
○		幼児体育Ⅱ	幼児期の子どもたちにとって「遊び」は知的・情緒的・身体的な発達発達のため非常に重要な要素を含むものであることを理解し、それを踏まえたうえで、対象者に対してどのような運動プログラムを選択するための材料と実践できるレパートリーを増やすための実践を繰り返す行う。	2	100	2		○		○		○						
○		実践ボランティア	ボランティアを通して、社会や地域のもつ教育力を有効に活用し、奉仕の精神とコミュニケーション能力、主体性を兼ね備えた人材の育成を図り、社会人としての心構えを育む。	1	24	1		○		○		○						○

○		キャリア演習Ⅰ	自己分析及びガイダンス等での関連業界に関する情報収集を通して、社会人として必要な知識や仕事へ取り組み姿勢等について学び、職業理解を深める。	1	40	2		○	○	○	○	○
○		キャリア演習Ⅱ	関連業界に関する情報収集や講話等を通して、社会人として必要な知識や仕事へ取り組み姿勢等について学び、職業理解を深める。	2	28	1		○	○			○
○		福祉・社会Ⅰ	新入生研修Ⅰ・地域研究・学習発表会Ⅰ・総合体育・事業所関連	1	76	2		○	△	○	○	○
○		福祉・社会Ⅱ	地域研究・学習発表会Ⅱ・総合体育・事業所関連・	2	68	2		○	△	○	○	○
合計				63科目			1140単位時間(104単位)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
授業科目の履修又は単位取得の認定について 授業科目の履修の認定又は単位取得の認定は次の条件をともに満たした時に行うものとする。 (1)授業科目の実施授業時間数は、教育科目時間配分と出席時間が指定基準時間数以上出席していること。 (2)試験その他の審査による学習の評価が「C(可)」以上であること。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	19週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。